

**2016年度
海外研修・研究等助成金
募集案内**

一般財団法人 企業経営研究所について

一般財団法人企業経営研究所は、1982年7月に、スルガ銀行の創立90周年を記念し、地域経済社会の新しい方向を模索し、中堅・中小企業経営の健全な発展、育成に寄与することを目的として設立されました。

当研究所では、設立趣意に則り、地域の中堅・中小企業の実証的調査研究や企業の戦略的行動に必要な情報の提供などを通じて、企業の健全な発展と育成に努めてまいりました。さらに、1996年4月より、国際交流支援事業として次の4つの事業を追加しました。

- 1.外国人・研修研究等助成事業
- 2.海外研修・研究等助成事業
- 3.国際交流功労顕彰事業
- 4.国際交流活動助成事業

これらの事業を通じて、地域経済社会の国際化に対応する人材を育成するとともに、人、物、情報、技術、文化などの内外の交流活動を積極的に支援しております。

- 名 称 一般財団法人 企業経営研究所
- 設 立 1982年7月26日
- 理事長 野村 喜八郎
- 所 長 磯邊 剛彦(慶應義塾大学経営大学院 教授)
- 所在地 〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号
ミシマ・スルガビル4F

海外研修・研究等助成金について

この助成金は、海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を伝え、分かち合うことを志す方を対象に助成するものです。

近年の助成対象 研修・研究テーマ

- コミュニティ・ラーニング ~全ての人が参加する社会の実現に向けて~
- 第2言語としての英語教育：カリフォルニア州と韓国の事例に学ぶ
- 英語教育の先進国ブータン王国から、日本の英語教育のあり方を考える
- 外国語教育と語学政策：オランダの事例から考えるグローバル教育のあり方
- 世界大会を通した総合学科高校生の科学教育プログラム
- 英語での自己発信の醍醐味が伝わる作文教育技法の習得
　　-ユネスコ文学都市アイオワ・サマー・ライティング・フェスティバルの参加を通じて-
- いじめ・自殺予防教育における先進諸国の実践を学ぶ

2016年度 海外研修・研究等助成金 応募要綱

助成金交付額	1件当たり最高50万円
対象テーマ	海外において技術や技能、知識などを修得または研究し、帰国後、教育の現場でそれを活かし、子供達に夢や感動を与え、分かち合う趣旨・内容であること。 (ただし、海外での活動内容が旅行会社の設定による海外研修ツアー等への参加にとどまる場合は、助成の対象となりません)
応募資格	静岡県内の小学校、中学校、特別支援学校、および高等学校に常勤する教職員の方で、次の事項のすべてに該当する方を対象とします。 (1)海外での研修、研究を志す意欲旺盛な方 (2)原則として年齢50歳以下、勤続3年以上の方 (3)勤務先校長の推薦が得られる方 ※なお、各学校において複数名応募いただいても結構です。
助成対象期間	12ヵ月以内(原則として決定通知後6ヵ月以内に研修開始)
応募方法	下記の必要書類を当研究所まで郵送にて提出して下さい。 (1)助成金交付申請書(所定様式※) (2)勤務先校長の推薦書(所定様式※) ※助成金交付申請書および推薦書は、当研究所のホームページよりダウンロードしてご利用下さい。 URL: http://www.srgi.or.jp
採用予定数	若干名
募集締切日	2016年5月31日(火) 締切当日消印有効
選考	(1)当財団の選考委員会にて審査・選考の上、理事長が決定します。 (2)選考の結果は、2016年6月中旬(予定)に、申請者・推薦者宛書面にて通知します。

◎交付対象者への注意事項

交付方法	助成金は、原則として一括交付します。
報告の義務	対象となる研修活動の開始および終了時に、下記の書類を提出していただきます。 (1)研修開始通知書 (2)助成金使途報告書・研修報告書 (3)研修レポート

お問い合わせ先

一般財団法人 企業経営研究所 (国際交流支援事業 事務局)

〒411-0036 静岡県三島市一番町15番26号
ミシマ・スルガビル4F
TEL:055-981-3033 FAX:055-981-5888
E-Mail:webmaster@suruga-institute.jp
URL:<http://www.srgi.or.jp>

2015年度
助成対象者 助成内容（研修報告）

幸せは自他ともに

デンマークにおける学び合いの姿

静岡市立清水江尻小学校 尾武 久子

本校はコミュニティ・スクールの研究を始めて3年目になる。この過程で私は、学校・地域・家庭が一体となり協働的に学び合うことが、地方創生や人々の幸せにつながるのではないかという思いを強くした。そこで、高負担高福祉であり世界一幸福度が高いといわれるデンマークの教育や社会について学びたいと考えた。

基盤となる価値観とその背景

デンマーク人は、自分がどうあることが幸せにつながるのか、それを貪欲に模索し続け、しかも、他者や環境との共生意識や中庸の精神を大切にしている。つまり主体性と市民性、自他の幸福を統合的に求める生き方がそこにある。

こうした価値観の形成に大きく関わっているのは、歴史や教育である。北欧神話、童話作家のアンデルセン、ヴィッテと呼ばれる和みを大切にする生き方、ヤンテの錠など人々の心の基盤となる背景が数多く挙げられる。また、教育関係者の話に登場したグルンドヴィの存在も大きい。19世紀半ばドイツとの戦争に負け国行く末を案じた彼は、生徒と教師が対話を重ねて学び合うことの大切さを説いたという。これらが生きた学びとなって、人々の価値観を形成しているのだ。

未来を創る主体者として

森の幼稚園、生涯学習教育機関（エフタスコール、フォルケフォイスコール）、学校と地域と警察を繋ぐSSP、学童クラブなどの教育機関では、やはり対話が重視されていた。それは、自分はどうありたいのかという自己との対話であり、私たちはどうあるのが望ましいのかという他者との対話である。基盤となる価値観があり、だれもがいつでもどこでも学べる社会の中で、立場を越えた学び合いが保障されているのだ。

こうした学び合いは、まちづくりにも生かされている。自他ともに幸福な社会の実現のために、対話しながら進めているため、新旧のバランスがとれたまちづくりとなっている。まさに、国民全員がデンマークという国をつくるデザイナーであり、クリエーターなのだ。国づくりに携わる一員として、納税も含め責任を果たすことが、主体者としての自由を獲得しているのだと感じた。

学びをつなぐ

今回の研修を通して、これから取り組むべき課題が見えてきた。授業づくりでは、子どもたちが能動的に学習に取り組めるよう何のための学びなのかを明確にする。それは未来デザインを描き、その実現に向けてどう学び生きていくのか考え方行動できる人間を育てるためだ。

自然との共存、中庸の精神などデンマークと日本には共通点もある。要は、何が大切でどのように考動していけばよいのか、それに気付く方法、“気付かせ方”的問題だろう。よって私は、自己や他者との対話や協働的な学びを再評価し、コミュニティ・スクールを生かした横断的・総合的な学習の可能性を今後さらに研究していくたいと考えた。そして、その実践を通じて、子どもたちや人々にとって生きることが楽しくなるコミュニティの形成に寄与したい。



フォルケフォイスコールにてグラフィックの授業



森の幼稚園にて。自ら小麦の粉挽き